

要 旨

現代社会は人間関係が希薄化していると言われており、望ましい人間関係を構築するために「伝え合う力」が不可欠であると指摘されている。その「伝え合う力」をはぐくむために、生徒たちが自らとかかわりのある人々との関係性を豊かにしていけるような指導の在り方を研究した。理由付けを必要とする発問を行い、自己の考えに気付き、話し合いをする活動を組み入れた。話し合うことで、他者の考えに触れ、自己の考えが広がりを持ち、深まっていく授業を行うことにより、多くの生徒が、人とかかわっていくこと、伝え合うことのよさを感じることができた。

〈キーワード〉 ①自己と向き合う ②話し合い活動 ③理由付けの発問 ④人間関係

1 研究の目標

道徳の時間において、互いの思いや考えを伝え合い、語り合う活動の工夫を通して、伝え合う力を高め、望ましい人間関係をはぐくむ指導の在り方を探る。

2 目標設定の理由

現代は物質的に恵まれ、飽食の時代と言われて久しい。その一方で、家族間でも互いのことを語り合い、時間を共有することが少なくなり、個室・孤食の時代であると言われている。子どもの社会においても、特定の友人にしか心を開かず、他者に自分の考えや気持ちをうまく伝えられない子どもたちの増加が表面化してきた。このような状況から、豊かな人間関係を築き、伝え合う力をはぐくむことが求められており、道徳的実践力の育成が目標となる道徳の時間の充実は大変重要である。

中学生の時期は、自分の人生をよりよいものにしたいという思いや願いが強くなる時期である。現代のように価値観の多様化した中で生きる生徒たちは、様々なことに興味を抱き、考え方や物事の受け止め方は千差万別である。したがって、その思いを引き出し、道徳的価値観を深めていくことが必要である。この深めていく段階で、自分一人で考えるのではなく、自分の考えを伝え、他者の考えを聞き受容することで更に深められると考える。そして、他者とのやり取りを通して自分の考えを見つめ直す力もはぐくむことができると考える。

そこで、本研究では、自分の思いを語りやすい発問や授業形態の工夫を通して、生徒が考えや思いを伝え合うことの大切さを感じ、望ましい人間関係をはぐくめる指導の在り方の研究が必要であると考える、本目標を設定した。

3 研究の仮説

望ましい人間関係をはぐくむために、多様な考え（意見）が出し合える資料を用いて、次のような手立てを取れば、伝え合う中で自分の考えを見つめ直す力が培われるであろう。

- (1) 理由付けを必要とする発問を行い、生徒個々の考えを引き出させる。
- (2) 話し合う形態の工夫（少人数、ゲストティーチャー）による伝え合いを行わせる。
- (3) 他者（相手）の考えを受容し、自分との考え方の相違を明らかにさせ、それを起点とした意見交換（考えの伝え合い）を行わせる。

4 研究の内容と方法

ア 研究紀要や文献や資料を基に、多様な考えを引き出す発問の研究

イ 研究紀要や文献や資料を基に、多様な考えを学び合い、深め合う授業形態、グループ討議等の在り方の研究

ウ 仮説を検証するために、所属校1年生32名（5時間）を用いて授業実践及び検証と考察

エ 伝え合う力を高め、望ましい人間関係をはぐくむ指導方法の在り方についてのまとめ

## 5 研究の実際

### (1) 研究の全体構想

対象学級における事前のアンケートによると、70%以上の生徒が、授業の中で意見を言うのは苦手であると答えている。その理由として、「恥ずかしい」「自信がない」「周囲が気になる」と答えている。それを受け、その思いが少しでも軽減し、伝え合うことのよさや楽しさ、喜びを感じられるよう、図1に示すように、伝え合う力を高めるための手立てと、多様な考えの学び合いを意識した道徳の時間を構想した。

### (2) 資料

資料の選択は大変重要なものであることはいうまでもない。生徒が自分のこととしてとらえることができ、生徒の考えを引き出せる資料の選択が大切である。本研究においては、下記の3点を中心に考え選択した。

ア 自分の価値観を提示しやすいもの

イ 多様な価値観と出会いやすいもの

ウ 価値観を裏付けるものについて考えを深められるもの

### (3) 発問

資料にかかわり、ねらいとする道徳的価値に迫り、自分の考えをもつために理由付けを必要とする発問を行った。なぜそう思ったのか、考えを整理することで自分の中の価値観がはっきりしてくる。それを基に、話し合いを行い、他者と交流することで、多様な価値観に触れることができる。図2に示すように、理由を明らかにすることで「自己の考え方に気づき」、他者との交流を経て「自己の考え方を広げ」、再度自己を見つめ直すことで「自己の考えを深め」ていくことができる。他者との交流を含め、常に自己との向き合いを意識していくことができる。

### (4) 話し合い

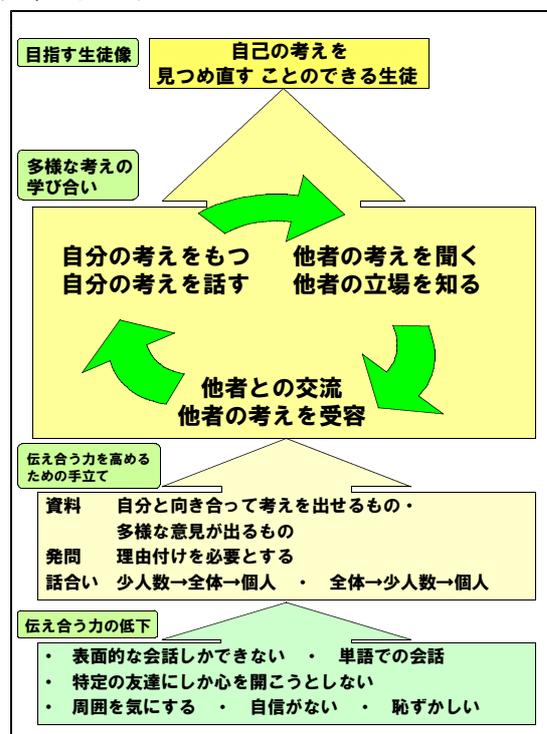


図1 全体構想図



図2 自己との向き合い3ステップ

表1 話し合い（交流）パターン

パターンA	少人数での話し合い → 全体での話し合い
パターンB	少人数での話し合い → 席を離れて自由な話し合い → 全体での話し合い
パターンC	少人数+ゲストティーチャーとの話し合い → 全体での話し合い
パターンD	全体の意見を知る → 少人数での話し合い → 全体での話し合い

理由付けをした自己の考えについて、意見を出し合い、話し合いをする。話し合うことで自分自身の価値観を確認したり、見直したりすることができる。自分の考えとの相違点に気付くことで思考

を深めることができる。また、普段話さないクラスの友達の意見を聞くことで、その存在を認め、友達のよさを認識することにつながると考え、話し合いを前頁表1の4パターンの中から実践する。

#### ア 話し合いの手立て

##### (7) 役割分担

司会者・記録者・発表者・計時（必要な場合）を決めておく。話し合いの中で傍観者にならないように役割意識をもたせる。

##### (4) 課題意識

a ねらいにかかわる内容や資料に対して、興味・関心が高まるような事前のアンケートを実施し提示する。

b 心理診断的な各種検査結果を活用する。学校全体又は学級の特性や傾向が見られ、参考となる。生活アンケートなども活用する。

c 心のノート・学活ノート・班ノート・諸活動の作文を活用する。生徒の意見や言葉から生徒の状態を把握するのに適している。導入での提示だけでなく、話し合いのテーマそのものにもすることもできる。

d メモを取りながら話し合いをさせる。自分の考えとの相違点を把握させることを常に意識させるようにする。

#### イ ゲストティーチャー（GT）との話し合い

##### (7) 事前の相談・打合せ

a GTの得意分野を把握する。できれば仕事だけでなく、特技や趣味なども尋ねておくと話題に幅ができる。

b 授業のねらいをはっきり伝える。何のためにGTを招いているのか、何を話してもらうのかなど、指導者が意図するところを具体的に話す。

c 授業過程をしっかり説明する。GTの持ち時間や使用する資料についても説明する。GT用の指導案を提示すると分かりやすい。

##### (4) 生徒との話し合いでの問い返し方

生徒の意見を否定せず、受容する姿勢をもったうえで、生徒の考えのあいまいな部分を「なぜそう思うのか」「どうしてそういう行動とったのか」「それはどういう意味か」などの問い返しを行っていく。生徒の考えが焦点化していくよう生徒の内面に入っていく。

#### (5) 自己との向き合い3ステップでの授業実践

事前のアンケートで「道徳の時間に自分の考えをもつことはできましたか」の項目で2人の生徒が「考えをもたない」と答えていた。Mさんはそのうちの一人で、その理由は、「何を考えていいかわからない・笑われる」としていた。「考えを発表できるか」の問に対しては、「周りの人の反応が気になるので発表できない、何を言ってよいかかわからない」と答えていた。Tさんは、「考えを発表できるか」との問に対して、「できる」と答えた5人の中の一人である。他の質問事項（意見を聞く・自分を振り返る・考えを深める・相手を認める）に対してもすべて「できる」と答えていた。Mさんについては、考えてみよう、伝えてみようとする意欲の面、Tさんについては、他者との交流で更に広い視野と考えの深まりを見るために抽出児とした。

次頁表2の\_\_\_\_\_ は実践授業における、多様な価値観に触れた部分を示し、~~~~~ は話し合いのよさを感じている部分を示している。

表2 自己との向き合い3ステップでの実践授業における抽出児の変容

	パターンC		パターンD	
実践授業	<p>主題名 勤労の貴さや意義について考えを深める【4-(5)】</p> <p>資料名 「仕事条件ランキング」</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勤労の貴さや意義を理解し、勤労に対する考えを深める。</li> <li>GTを交えた話し合いを通して多様な価値観に触れ、自己を見つめ、勤労に対する考えを深める。</li> </ul>		<p>主題名 伸ばしたい力と欲しい力【1-(5)】</p> <p>資料名 「人生は総合力だ」</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を振り返り、自分の長所や考えに気付く。</li> <li>話し合いを通して、これから培っていく生きる力について考えを深める。</li> </ul>	
発問	仕事を選ぶときに大切にしたい条件は何ですか。それはなぜですか。		あなたがこれから生きていく中で、伸ばしたい力は何ですか。それはなぜですか。	
	Mさんの変容	Tさんの変容	Mさんの変容	Tさんの変容
自己の考えに気づく	<p>《自己との向き合い1》</p> <p>条件「休みが多い仕事」</p> <p>理由：休みが多いとストレスがたまらないから。</p>	<p>《自己との向き合い1》</p> <p>条件「人の役に立つ・助ける仕事」</p> <p>理由：客室乗務員になりたいと思うので、人を手助けする仕事をしたい。</p>	<p>《自己との向き合い1》</p> <p>伸ばしたい力「計画力」</p> <p>理由：何かをするときもいつも計画できなくて後悔することが多いから。</p>	<p>《自己との向き合い1》</p> <p>伸ばしたい力「知力」</p> <p>理由：知力があれば、よい学校にも行けるし、よい仕事にも就ける。知力があれば自由にいろんなことができる。</p>
自分の考えを広げる	<p>《自己との向き合い2》</p> <p>自分の考えをもつことができてよかった。自分の意見を言えてとてもよかった。そのことがすごくよかった。<u>僕の意見が話し合いの中心になってとまどったけれど楽しかった</u>。また、こんなのをしてみたい。</p>	<p>《自己との向き合い2》</p> <p>世の中はお金で動いていると思っていた。GTの仕事の内容や仕事に対する考えを聞いて<u>それだけではないことに気付いてよかった</u>。GTの方の考えが私の「人の役に立つ」ということに通じていた。</p>	<p>《自己との向き合い2》</p> <p>グループで話し合うことをまたしたい。<u>友達のことが分かった。こんな考えをもっている人なんだということが分かってよかった</u>。</p>	<p>《自己との向き合い2》</p> <p>Iさんの意見「人間関係力」について班で話し合った。私はちょっと人見知りで、思い込みが激しいときがあるので、<u>この力は私の中で引っかけた</u>。</p>
自分の考えを深める	<p>《自己との向き合い3》</p> <p>働くということは、GTの方との話で、<u>お金だけではないんだと思った</u>。<u>みんなが幸せになれば自分も幸せになれると思</u>った。休みも大事だけど、<u>自分の力を試す方が、楽しさもあっていいんじゃないか</u>と思った。</p> 	<p>《自己との向き合い3》</p> <p>GTのみなさん方から「<u>お客様との信頼関係や人と仲良くすることが大切</u>」だと聞いて、「<u>そうか</u>」と納得した。ランキング形式で気持ちを表して、<u>みんなやGTの方と話し合</u>って、<u>今まで以上に自分のことや友達</u>のことが分かってきた。</p> 	<p>《自己との向き合い3》</p> <p>真剣にいろいろなことを考えた。<u>自分が本当はこんなことを思っているんだと分かった</u>。一人一人の考えが違うんだと感じた。</p> 	<p>《自己との向き合い3》</p> <p>みんなのカードを見て、<u>私が知らない力ばかりで、この力も欲しい、これは伸ばしたい</u>と思うものばかりだった。やっぱり<u>人間関係力は私の中で引っかけりっぱなし</u>だった。私は知らないことでも、深く考え込んでしまうことがある。<u>みんなと話し合</u>って、<u>気持ちがあよつと楽</u>になった。知力だけではなく伸ばしたい力がいっぱいだった。</p>

(6) 実践授業の分析と考察

ア 理由付けを必要とする発問に対して自己の考えをもつ理由付けを必要としたために、生徒は自分の中の価値観を意識化し、自分の考えをもつことができた(図3)。今までの自分を振り返り、自己を見つめるという明確な意図をもって発問することによってMさんは「考えをもたない」としていたが、考えをもつ《自己との向き合い1》ができた。

イ 伝え合おうとする意識の高まり

p.87表1の話合いのパターンのA~Dを用いて、話合いを行った。伝えようとする生徒は、言葉だけでなく、その表情や視線、仕草といったいろいろなものからメッセージを送ろうとしていた。それを受ける側も相手を受け入れようとする意識をもった積極的な参加や協力が見られた。生徒は話合いをすることで、真剣に考え、それを伝えられたときには、ある種の成就感というものを感じていた。話合いをすることは、多様な価値観に触れられるだけではない。前頁表2に示すように、パターンCの授業におけるMさんは、自分の発言が教師や友達に受け止められたという思いによって、自己存在感や所属感、自己肯定感を高めている。自信と安心感を得たことで、また話し合いたいという意欲の向上も見られる。Tさんは、「世の中はお金で動いている」と考えていたものが、それだけではないと気付かされ、GTとの話合いで自分の考えがすべてではないことを感じ取っている。これらは《自己との向き合い2》における他者との交流の成果である。

ウ 自己の考えの深まり

少人数での話合いで話題になったことや、友達の意見を全体に伝えさせた。少人数で話し合っている内容なので、話題にずれがなく、新しい価値観に出会った喜びや驚きを素直に伝えることができた。少人数での話合いでは得られなかった情報や視点を得ることもできた。Mさんは、少人数やGTとの話合いによって自分のことだけでなく「みんなの幸せ」に波及している。また、自分の力を試すことにも楽しさを見い出せるかもしれないと変容している。Tさんは、「知力が欲しい」という揺るがない価値観が存在していたが、他者の価値観に触れることで、自分には伸ばしたい力が多数存在していることに気付き、知力だけではいけないという《自己との向き合い3》における考えの深まりを見ることができ。気持ちの面からも同じ考えの友達の存在を知り、かたくなに考えるのではなく、心に少し余裕ができ始めていることが分かる。

少人数や全体での話合いによって、全員が自己の考えが広がったり深まったりしたという結果が得られた(図4)。今までの自分の考えに足りなかったものや、新たな価値観との出会いによって、考えの広がりや深まりを感じているのである。これは、道徳的価値の自覚を深めることにつながっている。

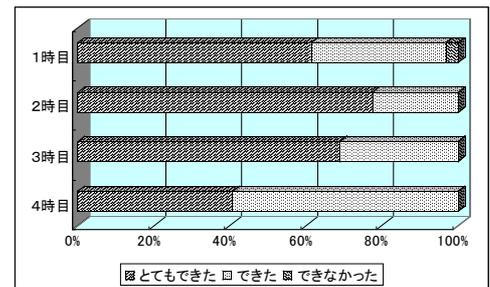


図3 考えをもつことができたか

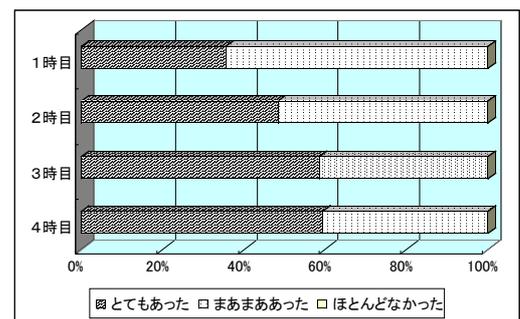


図4 考えが広がったり深まったりしたか

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 多様な考えを引き出す発問について

発問は多様な考え、個性的な考えが引き出されるよう、理由付けを必要とした発問を行った。

10人いれば10通りの意見や考え方があることを意識させ、自己と向き合い、自分の考えを整理させることで、友達の考えに左右されない自分の考えを提示することができた。

イ 多様な考えを学び合い、深め合う授業形態、グループ討議について

「多様な考えの学び合い」(p.87図1)のサイクルを意識した授業展開の中で、話し合いの形態(p.87表1)を工夫した。少人数での話し合いでは、全体の前では発表できない生徒も発言することができた。実践授業後のアンケートでは92%の生徒が、「自分の考えを以前より話すことができた」と答えている。これは、徐々に発言することにも慣れてきたこと、日頃は話す機会の少ない友達の意見を聞くことができ、伝え合うことのよさを感じた結果だと考える。また、自分の考えと他者の考えをすり合わせる過程を大切に話し合いをさせることで、自分の考えを見つめ直し、考えを広げ、深めることができた。

ウ 望ましい人間関係をはぐくむ指導の在り方について

わずか32人のクラスであっても、かかわりをもとうとしなかったり、話したことがないなどの現状があったが、話し合いを意識的に授業に組み込むことは人間関係を広げていくのに有効であった。

自分の発言が教師や友達に受け止められたという思いは、人間関係を構築する上で有為に働き、自己肯定感を高めるものであった。「普段話さない人と、普段話さないようなことを話して意外な共通点があって、話すよい機会だった」「授業以外でも、いろんな話をするようになった」など、話し合いは友達のよいところを知るきっかけになったと言える(図5)。

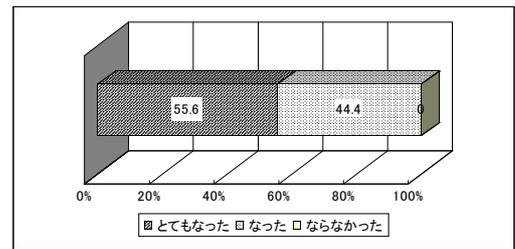


図5 話し合いは友達のよいところを知るきっかけになったか

エ GTとの話し合いについて

各グループにおけるGTとの話し合いでは、これまでの経験を交えた話が聞け、生徒にとって大変意義深いことであった。意見交換だけでなく質問もすることができ、友達だけでなく、地域の方とのかかわりも大切にしていっていききっかけ作りになった。GTと授業後も学校外であいさつを交わしたり、話をしたりしている生徒もいる。GTと共に地域の子どもとして育てていくという視点を設けることができた。

(2) 今後の課題

ア 資料を基に、そこから広がる自己の価値観に問い掛けられるような発問、ねらいに迫るための筋道を明確にした発問を行い、多様な価値観の練り合いができるよう指導過程を工夫していくことが必要である。

イ 少人数での話し合いにも変化をもたせ、形態・構成メンバーなどの工夫をしていく必要がある。

ウ 話し合いが意見の出し合いにとどまらないよう、課題意識を育てていくことが大切である。

エ 双方向的な伝え合いが十分できるよう、場の設定と、「多様な考えの学び合い」による話し合いが有意義であることを継続的に実感させていくことが大切である。

《参考文献》

- ・ 文部省 『中学校学習指導要領―道徳編―』 平成11年9月 文部省
- ・ 廣瀬 久 『発問の工夫』 1999年 明治図書
- ・ 七條 正典 「「伝え合う力」と豊かな人間関係」『中等教育資料』 平成17年12月号 ぎょうせい